

亀岡市防災講演会で日吉ダム洪水対応を報告

平成26年8月30日（土）、ガレリア亀岡にて、平成26年度亀岡市防災講演会が開催されました。この会は、防災の意識の向上のために、亀岡市防災会議が2年毎に行っています。会場には亀岡市の議員・職員、自治会、消防・水防関係者及び一般の方々など360人が参加し、関心の高さを感じました。

第一部は、日吉ダム管理所長が、日吉ダムの洪水調節の仕組み、昨秋の台風18号洪水に対し、下流水位が高い状態であったことから、ダムへの貯留継続の検討やその判断など、当時の緊迫した状況を報告しました。

あわせて、洪水時最高水位以上の容量まで使った洪水調節や、下流河川の水位低減、洪水により流出した流木の状況など、日吉ダムの操作とダムの効果について報告しました。

また、8月の台風11号及びその翌週の停滞前線による豪雨における最大流入量発生時のダムへの貯留は、97～98%であったことを報告しました。洪水時のダムの操作についての質問も出され、日吉ダムの洪水調節について、より理解を深めていただいたと感じています。

第二部は、京都大学防災研究所の中北英一^{なかきたえいいち}教授による、丹波地域の最近の豪雨の特徴を水文気象学的立場から見た、豪雨災害の関係について講演がありました。

丹波では、丹波山地に湿った空気がぶつかった際に積乱雲ができる「地形性降雨」が多い特徴があります。

また、台風による降雨では、昨秋の台風18号では、台風が通り過ぎて、日本海からの湿った北風の吹き込みにより、丹波地域に大雨が降ると注意を促しました。8月の集中豪雨では、六甲山系で発生した雲が連なり、この地域は集中豪雨が起こりやすいとのことでした。

さらに、これらの情報について、最新の気象予報の有効活用を呼びかけられました。



第一部「日吉ダム洪水対応説明」



第二部「丹波高地が豪雨を招く？」

